

a 学校教育目標	自らの夢に向かって考え、行動できる子供の育成 －自ら伸びる とともに伸びる－	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自ら考え、ともに考え、行動できる子供の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 「自ら伸びる とともに伸びる」主体的な学び合いの姿がある学校 ・確かな基礎学力をもとに、主体的・対話的で深い学びをめざす子供の姿がある学校 ・誇りとやりがいをもち、児童・保護者・地域と共に主体的に学び高まり合おうとする教職員の姿がある学校 ・学校の取組を理解し、夢や志をもち安心して生活する子供の姿を応援する保護者・地域の姿がある学校
----------	---	----------------------	--

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
c 中期経営目標		d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2 月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評 価			m コメント
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	基礎学力を定着させ、主体的・対話的で深い学びを進める力の育成を図る。	語彙力・認知能力の向上を図り、基礎学力の定着をめざす。	・少人数指導の推進と基礎・基本の反復練習の徹底（効果的な帯タイムの計画・実施） ①文法・ことば・聞き取り問題等の実施 ②認知機能トレーニングの実施	国語科・算数科・理科の単元末テスト結果（各学期）	各学期各教科 知識・技能 平均85点以上 思考・判断・表現 平均70点以上	知識・技能 国語 86.3 算数 87.1 理科 90.5 思考・判断・表現 国語 89.4 算数 78.0 理科 76.8		100%	A	どの項目においても、目標値を達成している。基礎的な知識は身につけてきていると判断できる。しかし、一般的なテストとなると、目標値が達成できていない。傾向として、①問題の中から情報を取り出すことが苦手②論理的な記述や思考が苦手である。	基礎的な力をつけていくとくみ（計算カード、音読等）は継続して行う。問題の中から情報を取り出す力をつけるために、問題文の長いもの等いろいろなパターンの問題を解く。論理的思考力を伸ばすために、上位語→下位語のプリント等にとりくむ。新聞記事を活用して自分の考えを論理的に表現する学習にもとりくむ。	○			児童の課題を適切に把握し、具体的な手立てを設定しています。基礎的な内容の定着と論理的思考力の向上を通して更に子どもの力が伸びることを期待しています。職員集団による図書室教育の積極的推進が図書室や壁画で感じられます。今後は児童主体の学びの読書につながることを期待します。
			・図書館教育の積極的推進 ①読み語り等の多様な読書活動の展開 ②「読みたくなる」環境づくり	年間読書冊数 1・2年生50冊、3年生40冊、4・5・6年生30冊 月間読書冊数 全児童1冊以上	達成した児童の割合 80%以上 達成した児童の割合 95%以上	92% 78%	91%	B	年間目標冊数は、達成することができた。昨年度に比べ8ポイント増えている。新刊や教師のおすすめ本コーナーを設置し環境を整えたことで、図書室に借りに来る児童が多くなったのではないかと考えられる。月間読書冊数は、目標の数値を達成できなかった。長期休み（8月）に借り換えができなかった児童や読む月と読まない月がある児童がいる。	2・3学期に教師による読み語りを実施し、児童に本の紹介を行い、読書意欲の向上を図る。司書と司書教諭、子ども司書、委員会が連携して、本の紹介やイベントの企画、図書館環境づくりを行う。6年生が中心となり、他教科と関連させながら図書館環境づくりを進めていく。					
		主体的・対話的で深い学びを実現し、「学び続ける」ためのコンピテンシー（知識・情報、思考力、表現力、主体性）を育成する。	・「問いの設定・探究・解決」の場と「学びのふり返り」がある授業づくりの推進 ①ゴールイメージからの単元・授業構成 ②「指導と評価の一体化」「メタ認知向上」をめざしたふり返りの工夫と実施 ③課題解決のツールとしてのICT活用	教職員アンケートによる評価 「ゴールイメージから授業が構成できている」 「明確な目的を持った学び合いが設定できている」 「学びに応じたふり返りが実施できている」 「課題解決のツールとしてICTが活用できている」 児童アンケートによる評価 「『学び合い』の場面では、自分の考えを友だちと伝え合うことができている」 「『ふり返り』の場面では、授業の初めより自分の考えが深まっている」 「課題を解決するためにICTを活用している」	各項目肯定的評価 80%以上 各項目肯定的評価 80%以上	100% 66.7% 66.7% 44.4% 88% 82% 69%	81% 95%	B B	その時間の終わった時の姿がイメージできているということは、身につけさせたい力を明確にすることができていると言うことである。そのための具体策として、他の3項目があるが、この部分が達成できていない。授業改善が進んでいないと考えられる。また、教職員のICTスキルもついてきていないと考えられる。 学び合いやふりかえり等、授業で培ってきたことについては、子どもたちも自信を持ってとりくんでいるといえる。 ICTスキルについては、個人差もあり、なかなか全員が使い切っていると自信を持ってないと考えられる。	具体的な授業改善が進むように、授業研究を中心に授業づくりについてさらに研修を重ねる。特に、「深い学び」についての理解深化をめざし、研修を仕組む。 ICTを使わざるを得ない場面を設定し、OJTとOFF-JTのバランスを図りながら、教職員のスキルアップを目指す。 子どもたちに自信をもたせ、理解と思考が深められるよう、これまでやってきた課題解決学習・学びあい・ふりかえり等を継続する。子どもたちには肯定的な評価を行っていく。 ICTスキルについては、基本的なスキルが身につくよう、校内の情報教育推進計画を見直すとともに、授業等で利用・活用をすすめる。学習場面のアウトプットでもICTが活用できるよう、学習を仕組む。					
豊かな心の育成	自他を愛し共感する力、思いやりの心、協力し合う態度を育てる。	自分や自分を取り巻く人・環境を愛し共感する力、思いやりの心、協力し合う態度を育てる。	・カリキュラム・マネジメントをベースとした地域学習の積極的推進 ①地域の教材化 ②地域人材活用の推進	児童アンケートによる評価 「自分や自分のふるさとは、よいところがある」 「自分の周りの人や環境に感謝している」	各項目肯定的評価 80%以上	94% 94%		100%	A	大幅に目標値を超えることができた。広島空港見学や水辺教室など地域人材を活用した学習を進めたことが要因だと考えられる。	積極的に地域人材を活用した学習を進められるように準備していく。また、事後学習として、振り返りやお礼の手紙を書く活動を設定することによって、地域学習を通して自分の学びが何だったのかを再認識し、郷土への愛情をもつことにつながるように支援していく。	○			地域の魅力を実感することができ、大きな効果が出ていると思います。
健やかな体の育成	生涯にわたる健康に対する高い意識を育て、体力の向上を図る。	「体を動かすことが楽しい」「やれば伸びる」と感じ、体力を向上させようと主体的に取り組む態度を育てる。	・体力向上PDCAサイクルの推進 ①外遊びの奨励 ②「なわとび」の推進	児童アンケートによる評価 「週3日以上、運動場や中庭で遊んでいる」 「なわとびで、跳ぶ回数やできる技が増えている」	各項目肯定的評価 80%以上	71% 61%		83%	B	外遊び・なわとびとも目標の数値に達しなかった。季節的に暑さが厳しく外での運動ができにくかったことが影響したこと、また、外遊びやなわとびに苦手意識をもっている児童がいることなどが考えられる。	担任による声掛けを徹底して行う。また、体育の授業の充実を図ったり、児童の委員会活動を活用して子ども主体で全校に働きかける取組を行ったりすることを通して、体を動かす楽しさや達成感を味わわせていく。	○			暑さが厳しい中体力づくりには難しさがあると感じます。暑さ対策をしながら体力の向上が図れる取組を今後も期待します。
働き方改革 業務改善	新たな教育課題等に適切に対応できる学校体制を構築し、教育の質の向上を図る。	地域・保護者が有する教育力との連携を図り、地域に開かれた教育課程を実現する。 教職員が健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。	・コミュニティ・スクールの導入推進 ①積極的な情報発信 ②導入準備会の開催	学校だよりの発行と配付 月1回以上 コミュニティ・スクール導入準備会 学期1回以上	100%達成	100% 100%		100%	A	・学校だよりを月1回以上発行し、地域・保護者へ積極的に情報発信を行った。 ・コミュニティ・スクール導入に向け、2回の準備会を開催した。	・引き続き、学校だよりを月1回以上発行し、積極的な情報発信を行い、地域に開かれた教育課程の実現に努める。 ・来年度からのコミュニティ・スクール導入に向け、準備会を進めていく。	○			風通しの良い職場集団が子どもの学び合いにつながっていると感じます。小さな業務改善を積み上げていきワーク・バランスの実現に向かってください。
			・業務改善の継続的实施 ①成績処理日の設定 ②教材研究時間の確保	市「学校における働き方取組方針」の「勤務上限目安時間」 時間外勤務時間月45h以内	100%達成	83%		83%	B	・毎週水曜日の15時下校、学期末の成績処理日の設定により、教材研究や事務処理の時間の確保を行った。業務量が減少できていないこと、業務内容に偏りがあること等が考えられる。 ・水曜日の定時退校日の完全実施や学期末の成績処理時間の確保に引き続き努めるとともに業務の取り組み方の見直しを引き続き行っていく。月の途中で職員全体の勤務時間を確認し声かけ等を行っていく。					

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60
【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。